

## 自由論題 2

### 報告テーマ

ブルネイにおけるイスラーム型マイクロファイナンスの使用実態: 動産担保貸付を事例に  
“Usage Survey of Islamic Microfinance in Brunei Darussalam: A Case Study of Collateral Loan”

### 氏名(所属)

上原健太郎(京都大学)  
KAMBARA Kentaro(Kyoto University)

### 要旨(800字程度)

「マレー・イスラーム君主制」を国家理念として掲げるブルネイ・ダルサラーム(以下ブルネイ)では、政治、経済、文化といった様々な分野においてイスラームの価値観が実現するよう、政策が推し進められてきた。イスラーム金融業は、そのような動向の一つである。具体的に、国内最大のブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行(Bank Islam Brunei Darussalam, BIBD)は、ブルネイ経済においてイスラーム的価値が反映する役割を担ってきた。BIBD が提供するイスラーム金融手法の中でマイクロファイナンスとして位置づけられてきたのが、イスラーム型動産担保貸付(Ar-Rahnu)である。

本報告の目的は、Ar-Rahnu で借入を行う顧客へ向けた調査票調査をもとに、ブルネイの首都バンダル・スリ・ブガワンにおけるイスラーム型マイクロファイナンスの使用実態を明らかにしようとすることである。具体的には顧客の属性、Ar-Rahnu の使用目的、およびその代替について分析を行う。

調査票調査の主な結果は以下の通りである。第一に、顧客の属性について、回答者の性別は約7割が女性、年齢は約6割が30~40代、エスニシティは約9割5分以上がマレー人であった。また、回答者の約6割5分が月額世帯所得の平均、中央値を下回っていた。

第二に、使用目的については、回答者の約半分が、食費や住宅の改築費用などの生活関連費用を目的に資金調達しており、一方で事業・運転資金を目的とした資金調達を行う回答者は全体の3割強程度であった。後者の目的については、ブルネイの経済政策で重視されてきた中小零細企業育成、ひいては経済多様化につながると位置づけられているため、BIBD による運営のなかで強調されてきた。

第三の点については、Ar-Rahnu の代替的な資金調達として、回答者の約半分が銀行のローンを挙げており、特にそのほとんどがイスラーム金融機関による個人ローンを念頭に置いている。

最後に、上記の Ar-Rahnu の使用実態から、ブルネイ社会におけるマイクロファイナンスの意義、役割を示す。